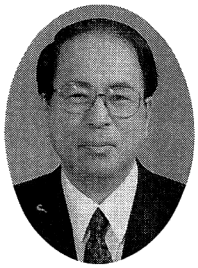
日本光学会 平成6年度年次報告

（平成6年1月1日～12月31日）

日本光学会では，1年間の活動を総括し，次年度の計画について会員の皆様に報告することが，3月末の学会の総会で行われてきました．その報告は，「光学」5月号の“会よりのお知らせ”の項で事業報告等として記載されてきております．このような形態ですと，各年に行われた学会活動が「光学」の中に埋没してしまい，後で学会活動を振返ったり，または長年にわたる活動状況を把握することが困難となっております．これらの問題を解決し，将来にわたって学会活動が容易に把握できることを目的として，“年次報告”を作成することに致しました．その第1回として，ここに平成6年度“年次報告”を掲載致します．

1. 総　　括

日本光学会幹事長　朝倉　利光



日本光学会は，その前身である光学懇話会が応用物理学会の分科会として設立されてから43年が経過しており，実質的には古い歴史をもっている．しかし，光学懇話会が日本光学会と改称したのが1989年であり，学会となってからはわずか6年しか経過していない．この6年間，日本光学会は名実共に学会となるために，出版活動と会議開催活動の充実を図ってきた．

出版活動については，従来から発行されてきた日本語の学術誌「光学」に併せて，昨年末に英語による新しい国際学術誌「OPTICAL REVIEW」Vol. 1, Nos. 1, 2の2冊の発刊に至った．継続して今年は，Vol. 2, No. 1が発行されている．この「OPTICAL REVIEW」の発刊は，光学とその関連分野における日本から世界へ向けての学術の発信源となることが期待され，今後の発展が楽しみである．ただし，「OPTICAL REVIEW」の順調な発展への基盤は未だ弱く，内容については編集委員会が，その他の財政的なことを中心とする諸問題には運営委員会が，それぞれの仕事に全力を傾けている．

次に会議開催活動については，最近まで日本光学会の主要な学術発表の場を応用物理学会の春秋講演会に依存してきたが，3年前から独自の学術講演会として応用物理学会秋季講演会の前後に光学連合シンポジウムが計画・実行されてきた．第3回目が9月22, 23日に浜松において開催され，一般発表153件，招待講演7件が，参加者397名を得て行われ，非常に盛会であった．過去3回の開催を通して，参加者の増加と併せて研究発表も充実してきており，学会独自の学術講演会として定着してきた感があり，今後の益々の発展が期待される．1995年度の光学連合シンポジウムは，9月20～22日の3日間東京にある日本女子大学での開催予定が決定しており，多くの参加者が期待されている．会議活動には，もう一つの重要な課題がある．それは学会が主催して国際的な集会を開催するなど，国際的な活動への期待である．その最初として，4月4～8日の5日間に京都国際会館において行われた1994年国際光学委員会研究集会「情報光学の最前線」の実質的な開催団体として活動した．本会議を成功裡に終わらせることができたことは，今後の学会の国際的活動への大きな指針となった．本会議での研究発表論文は，「OPTICAL REVIEW」のVol. 1, Nos. 1, 2の特集号および一部はVol. 2, No. 1に収録されている．

以上のように，日本光学会の学会としての基本的二大活動が徐々に構築されてきており，学会としての存在意義が大きくなっている．これら新しい活動と併せて，長年に渡って行われてきた種々の活動も例年通り活発に行われた．第19回光学シンポジウムが「光学系および光学素子の設計，製作，評価を中心にして」をテーマに，6月9, 10日に東大生産研で200名の参加者を得て盛会に行われた．講演件数は招待講演3件を含み19件で，かつ光学設計コンテストとソフトウェアの実演もあり非常に好評であった．8月24～26日には第31回サマーセミナーが「マルチメディア時代における光技術の役割」をテーマに浜松において開催され，参加者は83名であった．サマーセミナーは，今まで湖などをもつ山間部の避暑地で行われてきたが，今回は初めて気候的には暑い

海岸地で行われた．したがって参加者の人数に不安があったが，例年通りの参加者数を得て盛況に終わることができ，かつ内容と共に場所についてもまずまずの評判であった．1995年度のサマーセミナーは，8月末に応用物理学会講演会が開催されるため，それとの重なりをさけて中止することになった．第21回冬期講習会「コヒーレンスの不思議—光物理から応用まで—」が本年1月26，27日に東大生産研において開催された．参加者は82名で，特別講演1件と講義8件があり，講義内容に対する評価は非常に良好であった．以上三つの学会中心の割合に大きな集会のほかに，いろいろな講演会が行われた．地方講演会としては，11月に北海道講演会（釧路生涯学習センター）と関西講演会（神戸大学），12月には名古屋講演会（名古屋産業技術記念館）を主催した．また，共催として10月に第1回カラーフォーラムJAPAN，12月に四半世紀の歴史を踏まえて第25回記念画像工学コンファレンスが行われた．

学会には研究グループとして，視覚，ホログラフィックディスプレイ，微小光学，光コンピュータ，イメージ・サイエンス，位相共役・光波ミキシング，光設計，コンテンポラリーオプティクス，近接場光学の9グループがあり，それぞれ独自に研究会や講演会の開催，機関誌の発行など活発な活動が展開されてきた．なお，1995年から光コンピュータ研究グループの名称が光コンピューティングと変更される．

学会は，研究業績に対する二つの賞を設定している．一つは1992年に若手の光学研究者の育成を目的に設定された「日本光学会奨励賞」があり，3回目にあたる1994年度は日本電装の黒川和雅氏と日大文理の高木康博氏が受賞した．もう一つは1960年に設定された光学の分野における優秀論文の著者に贈られる応用物理学会「光学論文賞」があり，35回目にあたる1994年度は日立中研の岡井 誠氏と古野電気技研の吉森 久氏が受賞した．光学論文賞は，応用物理学会が与えてきた最も古い賞であり，賞の35回という長期にわたる実績から社会における評価も確立されてきている．本年度はこれら二つの賞の位置づけを考慮して，二つの賞の規定の再検討を行い，より公開性を基礎とする規定の改定を行った．

上記の日本光学会の種々の活動は，幹事会，常任幹事会，「光学」編集委員会，文献抄録委員会（前記編集委員会所属），「OPTICAL REVIEW」編集委員会，「OPTICAL REVIEW」運営委員会，日本光学会奨励賞および光学論文賞選考委員会などが中心となっている．これらの委員会を基に1995年度の活動も従来の線にそってすでに計画が作成されており，会員全体が参加できる形での益々の学会の充実が模索されている．特に，発刊に至った国際学術誌「OPTICAL REVIEW」の順調な発展への基礎を固めること，国際的な活動の場へ学会を位置づける努力などが当面の重要課題である．日本光学会は，会員数約2,000名で，応用物理学会の中の最大分科会である．今後の学会の益々の飛躍を考慮し，会員の増大を進める事業も今後の課題である．

2. 編　　集

「光　学」　　編集委員長　中島　俊典

「光学」の発行は順調であった．ただ，年間総ページ数は1992年の908ページをピークにやや減少して，794ページとなった．これは「OPTICAL REVIEW」の発刊にともない経費圧縮の必要があるためで，御理解をいただきたい．

編集委員会では，「光学」が広範な光関連分野の研究をリードする情報の発信源となるように，最先端のテーマを取り上げて特集を企画している．

しかし，先端に走りすぎても学会誌としての役割を十分に果たせない．編集委員会での検討から，特集テーマの基礎となる解説を「…の物理」として取り上げることにした．1995年6月号の特集「光スイッチ技術の現状と将来」における「光スイッチの物理」をはじめとして，その後も企画に加えてゆく予定である．また一方で，「トレンド追い」ではない，新しい切り口による特集テーマも取り上げる．1995年8月号では「世の中を変えた光技術」を企画している．完成されている光技術へのより深い理解から，また新たな発展へのヒントが得られるものと考える．

学会誌の重要な役割である研究論文の掲載は，「OPTICAL REVIEW」の発刊により転機を迎えている．掲載論文数は1993年まで増加の一途であったが，1994年は約2割減の44編であった．編集委員会では，これまでと同様に論文の投稿から掲載までの時間短縮に努めており，現在，平均で約6カ月である．「光学」に掲載された原著論文の著者は，「OPTICAL REVIEW」の論文の著者とともに，日本光学会奨励賞の対象になる．今後も，多くの論文を投稿していただきたい．

「さろん」の欄も会員が自由に投稿できることにした．研究や技術に関する話題，意見や質問などを気軽に投稿していただきたい．

「OPTICAL REVIEW」 編集委員長 伊藤 良一

英文論文誌「OPTICAL REVIEW」を創刊した．伝統ある会誌「光学」をもっているとはいえ，国際的に通用する欧文原著論文誌をもつことは日本光学会の多くの会員にとって長年の悲願であった．最近とみに高まった日本の研究活動を反映して，ますます多くの論文が海外，特にアメリカの雑誌に掲載されるようになった．この傾向は光学の分野でも例外ではない．このこと自体は国際化の一環であり，当然のこととともいえるが，一方，大部分の情報がアメリカで処理され，アメリカから発信されるようになるのは，学問，技術の発展にとって健全なこととはいえない．多くの要素の多様性とそれらの間の切磋琢磨がないところに文化の発展はないであろう．このような観点から，英文論文誌の創刊に踏み切った．光学分野の我が国の高い水準を基礎にしているが，発展著しいアジア，太平洋地域諸国を含む世界の研究者，技術者に役立つ国際的学術誌を目ざしている．

スコープは光学の全分野で，論文の種類としては，regular paper, short note, letter, review paper がある．速い出版と質の高い論文の掲載を目標とする．Vol. 1 (1994) は No. 1 および No. 2 が特集号として発行された．1994 年4月に京都で開催された ICO Topical Meeting "Frontiers in Information Optics" で発表された論文が掲載されている．Vol. 2 は No. 1 (Jan./Feb.) が発行された．当分の間，隔月刊行を予定している．なお，初代編集委員長は伊藤良一(東京大学)，編集事務は山口哲男氏 (日本学会事務センター) が担当する．

3. 会　　計

会計幹事 百村和司

平成6年度は日本光学会の大きな変化の年度でした．「OPTICAL REVIEW」誌の発刊事業，長年本会のお世話をしてくださった組橋茂子氏の退職に伴う事務分担の変更による経費負担等，会計的にみても大きな変化がありました．

平成6年度の決算内容を見ますと，まず講習会・講演会では光学連合シンポジウムを除いては収入が減少しています．景気の影響をうけて参加者を確保するのが難しい中，各事業とも苦心して，魅力ある内容とする，参加費を値下げする，あるいは支出を切り詰めるなどの対処をしています．このような努力の結果，平成6年度もわずかながら黒字を確保することができました．「光学」出版事業はページ数の削減や会議費等を削減するなど経費圧縮の努力をしています．平成6年度新たに加わった「OPTICAL REVIEW」では応用物理学会からの初期援助金，企業からの援助，Vol. 1, No. 2 の費用が平成7年度に繰越になったこと等があり，決算にみるような数字になっています．しかし，以上のことを考慮すれば黒字の事業ではなく，これを黒字の出せる事業とすることが急務です．このように，次期繰越収支差額の数字としては 1,417 万円と健全な数字にみえますが，現実は厳しく，援助等を除いた自力での黒字体質を早急に作り上げていかなければなりません．

このため平成7年度予算では，各事業担当幹事の方にはいっそうの経費削減の努力をお願いしています．数年のうちに健全な財政基盤を確保することを目標に経費削減等の努力をしていきますが，さらに会員数，特別会員増を図ることが必要です．

会員の皆様には重ねて「OPTICAL REVIEW」,「光学」への積極的な投稿と，身近な方への日本光学会入会の勧誘をお願いいたします．

以上，日本光学会の財政状況を中心に報告いたしましたが，その他にも故鈴木正根先生の御遺志により，ホログラフィックディスプレイ研究グループへの御寄付があり，「鈴木正根賞」として発足しております．故鈴木正根先生およびご遺族の方々にはこの場をおかりして感謝申し上げます．

平成6年度事業報告／平成7年度事業計画

	平成6年度事業報告	平成7年度事業計画
会誌の発行	「光学」Vol. 23 No. 1〜12 「OPTICAL REVIEW」Vol. 1 No. 1〜2	「光学」Vol. 24 No. 1〜12 「OPTICAL REVIEW」 Vol. 2 No. 1〜6
授賞	光学論文賞 ・岡井　誠氏（日立中研） ・吉森　久氏（古野電気） 日本光学会奨励賞 ・黒川和雅氏（日本電装） ・高木康博氏（早大理工，現日大文理）	光学論文賞 未　定 日本光学会奨励賞 未　定
講演会，講習会 主催／共催（研究グループは除く）	・第20回冬期講習会「フレッシュマンのための現代光学」　1月25〜26日　参加者89名 ・第27回光学五学会関西支部連合講演会「光と色からみた環境の分析と設計」　2月4日　参加者71名 ・第19回光学シンポジウム「光学系および光学素子の設計，製作，評価を中心にして」　6月9日〜10日　参加者200名 ・第31回サマーセミナー「マルチメディア時代における光技術の役割」　8月24日〜26日　参加者83名 ・光学連合シンポジウム浜松'94　9月22日〜23日　参加者397名 ・カラーフォーラム JAPAN '94　10月26日〜28日　参加者257名 ・北海道講演会　11月10日　参加者75名 ・関西講演会「機能性光ファイバ」　11月25日　参加者35名 ・名古屋講演会　12月2日　参加者76名 ・第25回画像工学コンファレンス　12月7日〜9日　参加者451名	・第21回冬期講習会「コヒーレンスの不思議—光物理から応用まで」　1月26日〜27日　参加者82名 ・第28回光学五学会関西支部連合講演会「マルチメディア時代の画像表現—フラットパネルディスプレイの将来」　4月21日 ・第20回光学シンポジウム「光学系および光学素子の設計，製作，評価を中心にして」　6月22日〜23日 ・光学連合シンポジウム東京 '95　9月20日〜22日 ・カラーフォーラム JAPAN '95 ・関西講演会 ・名古屋講演会 ・九州講演会 ・第26回画像工学コンファレンス
研究グループ	視覚，ホログラフィックディスプレイ，微小光学，光コンピュータ，イメージ・サイエンス，位相共役・光波ミキシング，光設計，コンテンポラリーオプティクス，近接場光学	視覚，ホログラフィックディスプレイ，微小光学，光コンピューティング（名称変更），イメージ・サイエンス，位相共役・光波ミキシング，光設計，コンテンポラリーオプティクス，近接場光学
幹事会，委員会	幹事会　3回 常任幹事会　3回 「光学」編集委員会　8回 文献抄録委員会　7回 文献抄録委員会（関西）　3回 「OPTICAL REVIEW」編集委員会　1回 「OPTICAL REVIEW」運営委員会　4回	幹事会　3回 常任幹事会　3回 「光学」編集委員会　8回 文献抄録委員会　6回 文献抄録委員会（関西）　3回 「OPTICAL REVIEW」編集委員会　4回 「OPTICAL REVIEW」運営委員会　3回
会員数	平成6年12月31日現在（（　）内は昨年度） A会員　803名（771名） B会員　1195名（1256名） 特別会員　123名（142名） 賛助会員　79社　143口 （86社　152口）	――

平成6年度日本光学会講演会，講習会一覧表

主催／共催（研究グループ含む）合計43件開催

開催日	主催／共催	名　　称	備考（場所，参加人数）
平成6年 1/22	コンテンポラリーオプティクス	第1回研究会「レーザ分光の基礎と最新の話題」	日本女子大学図書館会議室（東京，文京区），参加者42名
25～26	**日本光学会**	**第20回記念冬期講習会「フレッシュマンのための現代光学」**	**東京大学生産技術研究所（東京，港区），参加者89名**
2/4	**日本光学会**	**第27回光学五学会関西支部連合講演会「光と色からみた環境の分析と設計」**	**三田出版会大会議室（大阪市，北区），参加者71名**
4	光コンピュータ 位相共役・光波ミキシング	第61回光コンピュータ研究会，第2回位相共役・光波ミキシング研究会合同研究会	東京大学物性研究所（東京，港区），参加者58名
8～10	視覚	1994年冬期研究会	興和（株）東京支店（東京，日本橋），参加者162名
28	光設計	第2回研究会	東京工芸大学工学部（厚木市，飯山），参加者64名
3/4	微小光学	第51回研究会「光ネットワークと微小光学」	東京大学生産技術研究所（東京，港区），参加者150名
4	ホログラフィック・ディスプレイ	平成5年度第4回研究会「動画ホログラムの最近の動向」	千葉大学工学部（千葉市，稲毛区），参加者110名
29	光コンピュータ	第62回研究会	明治大学理工学部（川崎市，多摩区），参加者26名
4/4～8	**日本光学会**	**Topical Meeting of the International Commission for Optics (ICO): Frontiers in Information Optics**	**京都国際会議場（京都市，宝が池），参加者456名**
10～14	**日本光学会**	**Third International Conference on Optics Within Life Science (OWLS III)—Optical Methods in Bio-Medical and Environmental Sciences**	**早稲田大学国際会議場（東京，西早稲田），参加者188名**
5/27	ホログラフィック・ディスプレイ	平成6年度第1回研究会	東海大学湘南キャンパス（平塚市北金目），参加者60名
6/9～10	**日本光学会**	**第19回光学シンポジウム「光学系および光学素子の設計，製作，評価を中心にして」**	**東京大学生産技術研究所（東京，港区），参加者200名**
10	光コンピュータ	第63回研究会	三田出版会大会議室（大阪市，北区），参加者25名
11	コンテンポラリーオプティクス	第2回研究会「半導体レーザの基礎と最新の話題」	東京大学生産技術研究所（東京，港区），参加者43名
20～21	微小光学	第10回記念特別セミナー「微小光学の重要領域と基盤技術」	石垣記念ホール（東京，港区），参加者83名
23	近接場光学	第1回研究討論会	東京工業大学国際交流会館（東京，目黒区），参加者88名
7/7～9	光コンピュータ	第64回研究会（夏合宿）	けんぽ長岡（静岡県，伊豆長岡町），参加者38名
11	位相共役・光波ミキシング	第3回研究会	電気通信大学（東京，調布市），参加者49名
7/18	微小光学	第52回研究会「これからの光メモリ技術」	慶応義塾大学三田キャンパス（東京，港区），参加者84名
19	光設計	第3回研究会「光リソグラフィの最先端」	日立中央研究所講堂（東京，国分寺市），参加者90名

開催日	主催／共催	名　　称	備考（場所，参加人数）
8/1～3	視覚	夏期研究会	石川島研修センター（神奈川県，綾瀬市）参加者160名
24～26	**日本光学会**	**第31回サマーセミナー「マルチメディア時代における光技術の役割」**	**浜名荘（静岡県，舞阪町），参加者83名**
9/2	ホログラフィック・ディスプレイ	第2回研究会「物理教育・芸術教育におけるホログラフィ」	上智大学8号館（東京，千代田区），参加者50名
16	位相共役・光波ミキシング	特別セミナー「フォトリフラクティブ非線形光学—原理から応用まで—」	東京大学生産技術研究所（東京，港区），参加者27名
19	位相共役・光波ミキシング	応用物理学会学術講演会シンポジウム「位相共役光学」	名城大学（名古屋市，天白区）
20	光コンピュータ	第65回研究会「超並列コンピュータとその応用」	名城大学（名古屋市，天白区），参加者34名
22～23	**日本光学会**	**光学連合シンポジウム浜松 '94**	**クリエート浜松（静岡県，浜松市），参加者397名**
10/17	微小光学	第53回研究会「これからのディスプレイと微小光学」	富士通研究所岡田記念ホール（川崎市，中原区），参加者110名
21	コンテンポラリーオプティクス光設計	ジョイント研究会「光学系のあゆみと最新の話題」	日本女子大学80年館（東京，文京区），参加者169名
26～28	**日本光学会**	**カラーフォーラム JAPAN '94**	**工学院大学（東京，新宿区），参加者257名**
11/9	ホログラフィック・ディスプレイ	第3回研究会「3次元イメージとホログラフィの国際シンポジウム併催」	千里ライフサイエンスセンター（大阪府，豊中市），参加者50名
10	**日本光学会**	**北海道講演会**	**釧路市生涯学習センター（北海道，釧路市），参加者75名**
24	近接場光学	第2回研究討論会と講演	東京農工大学工学部（東京，小金井市），参加者87名
25	**日本光学会**	**関西講演会「機能性光ファイバ」**	**神戸大学工学部（神戸市，灘区），参加者35名**
25	ホログラフィック・ディスプレイ	第1回 Hodic 公募研究会	多摩美術大学上野毛キャンパス講堂（東京，世田谷区），参加者80名
26	ホログラフィック・ディスプレイ	第1回 Hodic 芸術系シンポジウム	多摩美術大学上野毛キャンパス講堂（東京，世田谷区），参加者40名
12/2	**日本光学会**	**名古屋講演会**	**産業技術記念館小ホール（名古屋市，西区），参加者76名**
2	光コンピュータ	第66回研究会	慶応義塾大学松下記念図書館（横浜市，港北区），参加者22名
2	微小光学	第54回研究会「オプトエレクトロニクスと微小光学」	中国電力大会議室（広島市，中区），参加者45名
7～9	**日本光学会**	**第25回画像工学コンファレンス—第25回記念大会—**	**ABC会館（東京，港区），参加者451名**
9	位相共役・光波ミキシング	第4回研究会	神戸大学瀧川記念学術交流会館（神戸市，灘区），参加者40名
15	光設計	第5回研究会「撮影レンズの技術と課題から」	東京大学生産技術研究所（東京，港区），参加者109名

平成6年度収支決算

<収入の部>

平成6年1月1日～12月31日

大科目	中科目	金額	内容（金額記入）
会費収入		15,790,860	
	会費収入	15,790,860	
事業収入		30,205,650	
	講習会，講演会収入	5,168,160	サマーセミナー 2,127,000，冬期講習会 607,000，光学連合シンポ 1,701,160，その他 733,000
	会誌出版事業収入「光学」	10,632,050	別刷代収入 4,452,050，広告料収入 6,180,000
	会誌出版事業収入「OPTICAL REVIEW」	13,405,440	
	その他事業収入	1,000,000	一般会計寄付金
雑収入		634,264	
	受取利息	314,484	
	雑収入	319,780	バックナンバー，資料コピー代
引当金戻入		160,584	
	回収不能引当金戻入	160,584	
繰入金収入		10,398,400	
	分科会賛助会費還元金	4,608,000	40,000×80%×144 口
	分科会給与補助	5,790,400	学会担当者分
当期収入合計		57,189,758	
前期繰越収支差額		3,185,005	
収入合計		60,374,763	

<支出の部>

大科目	中科目	金額	内容（金額記入）
講習会，講演会事業費		4,871,086	
	臨時雇賃金	200,000	アルバイタ手当 サマーセミナー 0/冬期講習会 0/光学連合シンポ 170,000/その他 30,000
	印刷製本費	1,378,009	サマーセミナー 258,400/冬期講習会 54,153/光学連合シンポ 830,936/その他 234,520
	諸経費	3,293,077	会議費 580,683/71,857/592,292/133,652，賃借料 81,846/0/161,020/0，旅費交通費 278,539/14,000/27,780/29,000，諸謝金 623,041/278,708/0/264,517，通信運搬費 12,680/5,870/79,010/24,804，雑費 15,238/927/2,369/2,163，消耗品費 0/103/12,978/0
会誌出版事業「光学」		22,753,420	
	印刷製本費	15,474,959	
	発送通信費	3,720,726	
	諸経費	3,557,735	会議費 182,653，旅費交通費 1,139,460，通信運搬費 312,681，消耗品費 0，賃借料 66,435，編集委託費 1,236,000，諸謝金 580,800，雑費 39,706
会誌出版事業「OPTICAL REVIEW」		6,090,773	
	印刷製本費	4,538,193	
	発送通信費	644,515	
	諸経費	908,065	会議費 34,374，旅費交通費 302,290，通信運搬費 341,870，消耗品費 2,850，臨時雇い賃金 32,290，賃借料 15,970，編集委託費 92,700，諸謝金 0，雑費 85,721
その他事業費		1,493,750	
	助成金支出	1,493,750	関係先補助金等，研究グループ
管理費（含 幹事会）		8,854,870	
	給料手当	5,790,400	学会担当者負担
	印刷製本費	116,367	諸印刷費，資料コピー代
	賃借料	25,844	
	諸経費	2,069,959	臨時雇い賃金 0，会議費 119,621，旅費交通費 1,123,180，消耗品費 44,138，通信運搬費 494,377，諸謝金 0，雑費 212,185，消費税 57,478，振替手数料 18,980
	回収不能引当金	852,300	
繰入金支出		2,145,180	（他会計への支出額）
	学会事務費	2,145,180	事務手数料
予備費		0	
当期支出合計		46,209,079	
当期収支差額		10,980,679	
次期繰越収支差額		14,165,684	

平成7年度収支予算

<収入の部>

平成7年1月1日～12月31日

大科目	中科目	金額	内容（金額記入）
会費収入		17,205,000	
	会費収入	22,980,000	A，B会員 2,100 名×9,600，学生会員 40 名×6,000，特別会員 172 口×15,000
	「OPTICAL REVIEW」購読料分補正	−5,775,000	2,100 名×2,750 円 「OPTICAL REVIEW」国内会員購読料分
事業収入		32,655,000	
	講習会収入	1,000,000	冬期講習会 1,000,000
	研究会収入	2,150,000	光学連合シンポジウム 1,300,000，光学シンポジウム他 850,000
	会誌出版事業収入「光学」	8,470,000	別刷収入 3,070,000，広告料収入 5,400,000
	会誌出版事業収入「OPTICAL REVIEW」	21,035,000	国内会員購読料 5,775,000 2,100 名×2,750 円 投稿料 4,320,000 540 件×10,000 円×0.8 図書館購読料 4,500,000 150 件×30,000 円 別刷り代その他 1,440,000 出版事業補助 5,000,000 応用物理学会から
その他事業収入		1,000,000	
	その他事業収入	1,000,000	
雑収入		350,000	
	受取利息	300,000	
	雑収入	50,000	
繰入金収入		10,821,000	
	分科会賛助会費還元金	4,672,000	146 口×40,000 円×0.8
	分科会給与補助	6,149,000	
当期収入合計		62,031,000	
前期繰越収入差額		1,500,000	
収入合計		63,531,000	

<支出の部>

大科目	中科目	金額	内容（金額記入）
講習会事業費		2,950,000	冬期講習会 950,000/光学連合シンポジウム1,235,000/光学シンポジウム他 765,000
	臨時雇賃金	110,000	アルバイター手当 0/80,000/30,000
	印刷製本費	1,250,000	350,000/650,000/250,000
	諸経費	1,590,000	旅費交通費 60,000/90,000/100,000，賃借料 10,000/110,000/0，会議費 100,000/20,000/170,000，通信運搬費 80,000/95,000/95,000，諸謝金 300,000/150,000/100,000，消耗品費 20,000/10,000/0，雑費 30,000/30,000/20,000
会誌出版事業「光学」		21,350,000	
	印刷製本費	15,000,000	会誌
	発送通信費	2,417,000	発送通信費
	諸経費	3,933,000	旅費交通費 1,100,000，会議費 170,000，諸謝金 720,000，賃借料 30,000，通信運搬費 400,000，消耗品費 0，雑費 30,000，編集委託費 1,200,000，事務委託費 283,000
会誌出版事業「OPTICAL REVIEW」		21,804,000	
	印刷製本費	17,284,000	会誌（校正，編集事務費，通信，運賃を含む）
	発送通信費	3,341,000	配布経費
	諸経費	1,179,000	英文校閲料 100,000，別刷発送費 90,000，通信費 90,000，委員会費 884,000，雑費 15,000
その他事業費		1,550,000	
	補助費	1,550,000	研究グループ 50,000円×9，新設研究グループ予算 50,000 円×2 その他事業費 1,000,000
	名簿作成費	0	
管理費(含 幹事会)		9,199,000	
	賃借料	0	
	印刷製本費	180,000	諸印刷費 160,000，資料コピー代 20,000
	給与手当	6,149,000	(仮)
	諸経費	2,470,000	旅費交通費 1,450,000，会議費 150,000，諸謝金 0，消費税 170,000，通信運搬費 400,000，消耗品費 40,000，雑費 200,000，臨時雇賃金 50,000，振替手数料 10,000
	回収不能引当金	400,000	
繰入金支出		2,164,000	(他会計への支出額)
	学会事務費	2,164,000	事務手数料 1,420,000，講習会手数料 60,000，配布誌実費（賛助会員分）684,000
予備費		500,000	
当期支出合計		59,517,000	
当期収支差額		2,514,000	
次期繰越収支差額		4,014,000	